

近代以降の日本と中国における漢字の移り変わり

吳瑤瓊

要旨

漢字は中国から日本に輸入されてから千年以上の歴史があり、その間に両国の漢字とも巨大な変化が起きて、そのうえ戦後それぞれに漢字改革が行われた。本稿では、近代以降の日本と中国での漢字改革の関係を解明するため、両国の漢字表に基づいて漢字改革の経緯を明らかにし、両国の全国区で権威のある調査の結果も分析を行い、現代社会での漢字の姿を伝えたいと考える。

キーワード：漢字制限、簡略化、漢字表、漢字情報処理、漢字の書く力の低下

1. はじめに

筆者は日本語を勉強するときに、日中両国漢字の書き方の微妙な区別気づいた。漢字の勉強は中国人学生にとって有利である点の一つと思われがちであるが、実はいつも有利に働くとは限らない。中国人学生は日本と中国の漢字の書き方がほぼ同じだと思い、つい重視せず間違えて書くことも少なくない。そこで筆者が知りたくなったのは、日本と中国の漢字はいったいどのような関係にあるかということであった。漢字は中国から輸入されてからどんな過程を経たのか、また、その漢字簡略化の要因も解明したいと考える。

2. 漢字改革の過程

歴史から見れば、日本でも中国でも、民衆の間で自発的に漢字を簡略化したこともあるし、政府によって組織的な改革が行われたこともある。ところが、改革の背景については両国でまったく違う。まずは文字体系である。日本語は一般的に「漢字仮名交じり文」で表記されるが、中国語は漢字だけである。そのために日本においては文字改革がいくつかの選択肢があり、理論的には漢字でなくても、仮名とローマ字で表記してもかまわない。中国は漢字を捨てると、まったく新しい文字体系を作り出すよりほかない。そして両国の教育状況も違う。日本は数百年間識字率が世界一を誇り、文字改革も非常にやりやすかった。中国は解放当時文盲率が80パーセントに達するほど高く、著しい対照をなした(林・松岡(1997))。このように異なった背景をもつにせよ、両国は意外にも似ている文字改革の道を進んできた。

2.1 漢字廃止論と漢字制限論

漢字は仮名やローマ字に比べて書きにくく、習得するために長い時間がかかる。それゆえに、漢字の使用をやめ、仮名かローマ字あるいは新字を作るかして日本語を表記しようとする漢字廃止論が現れた。それに対して、福沢諭吉は一挙に廃止することは不都合があるとして、まず漢字の数を減らすことをしながら、廃止の良い時期を待つといった漢字の制限を主張した(阿辻(2010))。戦後に至って、日本には占領政策を実施したGHQ¹により極めて大きな変革が起こった。GHQの要請で来日した「アメリカ教育使節団」(United States Education Mission to Japan)は昭和23年(1948年)に、空前絶後ともいうべ

¹ 連合国軍最高司令官総司令部 (GHQ=General Headquarters)

き読み書き能力テストを実施した。テストの結果は思いのほか良く、日本人の世界に驚くほど高い識字能力を示し、結局ローマ字による文字改革はやめられた。

中国では日本と同じように、文字改革の前に漢字廃止論者がいた。19世紀頃、西洋文明と東アジア文明の交流に伴い、相互理解に便利のように、漢字ラテン文字化は西洋人を主として行われた。当時西洋文明に衝撃を受けた多くの知識人は、中国の伝統文化が中国の立ち遅れの原因だと考え、一切の伝統的な事物を否定する態度をとった。漢字の習得が難しいことから、19世紀末に梁啓超が漢字より学びやすい表音文字を主張した後、20世紀初頭に魯迅がさらに「漢字不滅、中国必亡（漢字を取り除かないと中国は必ず滅びる）」と過激な意見を語った。20世紀半ばまでで漢字廃止論者が唱えたもっとも影響力のある方案は、言語政策を担った呉玉章、瞿秋白らによって提出された、1931年の「中国文字ラテン化の原則と規則」である。

しかし、ラテン文字は同音字の多い中国語をどう表すかという問題を解決するために、いろいろな方法が試みられたが、効き目はなかった。しかも当時の中国では共通語がまだ普及しておらず、方言それぞれにラテン化方案があり、ある方言が話せない人はその方言通りのラテン文字のみ見ると全然理解できなかった。以上の二つの原因で、ラテン文字を推進する過程で多々障害にぶつかった。のちラテン文字化はいくつかの方案を経て日本語のふりがなのようなピンインになった。発音の表記と文字入力の手段の二つの機能を持つピンインは、ラテン文字と大きな違いがないものであり、ラテン文字を受け継いだともいえよう。

2.2 漢字簡略化

戦後から現在にいたるまで、日本では「当用漢字表」（1946年）、「常用漢字表」（1981年）、「改定常用漢字表」（2010年）、中国では「漢字簡化方案」（1956年）、「簡化字総表」（1986年）を漢字使用の基準とする整理案が施行された。

日本の「当用漢字表」は、当時の社会情勢に応じて作られたものであり、あくまでも漢字廃止までの一環とされたようである。GHQかアメリカ教育使節団からの影響を受けたと言え、漢字をいち早く制限すべきだという認識のもとで、国語審議会は戦後まもない時期に、計1850字の「当用漢字表」をまとめた。このような漢字制限施策に対しては、「当用漢字改定音訓表」（1972年）で「ある程度を超えて漢字使用を制限すると、その利点を失うものである」と、はじめて否定の意を表した。それからのいくつかの漢字表試案²にも「目安を示す」「制限的なものではない」と述べられていた。各界から広く意見を聞いたのち、委員会は1981年によく95字増の「常用漢字表」を公表した。

漢字が機械で処理できなかったことはかつて制限の一つの論拠であったが、1970年代から日本語情報処理の発展のおかげで、技術的にはすでに問題にならなくなった。書けない字がワープロで簡単に打ち出せるようになってから、漢字字数増加の要望はいよいよ差し迫ってきた。「常用漢字表」に対する検討とするアンケート調査が実施されたあと、2136字の「改定常用漢字表」にまとめられた。

では、中国における漢字改革はどう行われたのか。毛沢東の「世界共通の表音文字」を作るという指示に従い、文字改革委員会は歴史の中から俗字や草書を選んで「漢字簡化方

² 「新漢字表試案」（1977年）、「常用漢字表案」（1979年）。

案」を作り出した。当時新字体³は漢字を廃止するまでの過渡期用文字として期待された。1977年の「第二次漢字簡化方案（草案）」はさらなる簡略した漢字が含まれたが、問題が多く、反響もよくないので廃止された。その経験をくみ取り、1986年の「簡化字総表」は、簡略にしすぎるなどの不合理を考慮した結果を反映しており、現在従う基準とされる。

ここまで述べてきたように、日中両国は字形の簡略と字数の削減の二つの面に力を入れたが、日本は字数、中国は字形に重きを置いたことがわかる。中国では字数を制限しなかったのは、当時日本の当用漢字の考え方を知らなかったわけである。「もしまず字数をある程度制限してから簡略化すると、もう少し回り道しなかつたらろう」と中国の社会言語学者の陳原が指摘している（林・松岡（1997：240））。字形については、新字体は両国とも主に当時の俗字で構成された。

漢字改革を全般的に見れば大体三つの段階に分けることができる。まずは初期の大規模かつ性急な漢字施策であり、漢字廃止に向かって進むという意図が見える。次はいきすぎた改革に対する反省と整理する段階である。日本は「常用漢字表」から、中国の場合は「簡化字総表」からその段階に入った。現在は細部の編集に着目している段階であり、今後の簡略化は少なくとも短時間で安定すると言語学者の意見の統一が見える（陳章太（1992））。

3. 社会的反響

前節の例から、漢字改革がもたらした字形の変化が明らかに見える。漢字を書くことと読むことは欠かせない日常生活の一部であるが、漢字表⁴が公表されてから、人々の生活はどんな影響を受けたのであろうか。また、これらの漢字表はどのくらい受け入れられているのであろうか。

3.1 日本：「制限」から「目安」へ

「当用漢字表」では、一般社会ではこの表に入っている漢字しか使えず、ふりがなをつけることも許さない、という「制限」の目的が明確に示された。国民が守らなければならない条文であるので、漢字表記上に強い影響力を与えたことが想像される。その効果としては、「別のことばにかえる」という「書き換え語」とか、漢字とかなの交ぜ書きが見える。「皮ふ」のようなもとの漢字（「膚」）が極めて難しいのは別にし、「混とん」（「混沌」）、「喝さい」（「喝采」）などの言葉は「幼稚な書き方」と指摘され、当時の社会では「概して評判が悪い」（阿辻（2010：80））。

「常用漢字表」と「改定常用漢字表」とは、「当用漢字表」と異なり、制限という意図の代わりに目安を求めたと評されている。「制限」から「目安」への転換が最も直観的にわかるのは、表内漢字の字数の推移である。あらためてまとめると、「常用漢字表」は1850字の「当用漢字表」から一字も削ることなく、95字が追加された、1945字の漢字表である。「改定常用漢字表」は1945字の中から5字が削除され、196字が追加され、計2136字となった。このような変化は大衆から歓迎された。もちろん「目安」だからといって、どんな漢字を使ってもかまわないわけではない。分野によって漢字表から離れたものがそ

³ 中国語では「簡体字」と呼ばれているが、本稿では便宜的にこの言葉で統一する。それ以前の簡略化する前の漢字は「旧字体」と呼ばれている。

⁴ ここでは日本の「当用漢字表」、「常用漢字表」、「改定常用漢字表」と中国の「漢字簡化方案」、「簡化字総表」を総称して「漢字表」と呼ぶ。

れぞれあるが、漢字表が従うべき基準となるのは争えない事実である。漢字表の改定に従い、新聞や放送などの用語は、新聞用語懇談会で審議されるべきである。審議の結果に基づいて、各新聞社は自社用の手引きを直してきた。(三枝 (2012))。

3.2 中国：漢字改革の効果と問題

中国は日本と比べて文盲率が高いため、読み書きできない人に漢字を教えるならやはり新字体が受け入れやすいので、文字改革を推進する過程で日本より差し障りが少ない。新字体のおかげで、漢字を学ぶ負担が軽くなり、教育普及に大事な役割を果たした。

1950年代末から全国的範囲で「識字運動」⁵が展開された。新字体の普及がその一環である。もちろん識字率の向上は新字体の普及と単純な関係ではないが、大衆からの支持によるところが小さくないはずである。2000年ごろから、国を挙げて文字規範化運動が自発的に展開されてから、人々は街角や読み物などにある標準的ではない漢字をなくし、規範的な文字を覚えることに積極的に取り組んでいる。特に「第二次漢字簡化方案(草案)」の中の簡略化しすぎた漢字は一時流行していて、廃止された後も意識せず使われていたが、その運動で数が激減した。

現在非規範的な漢字はそれほど深刻な問題ではなく、文字規範化運動ですでに望ましい発展を遂げたと言えよう。ところが近年は逆に、香港、マカオと台湾との交流により、旧字体の氾濫が問題になった。中国大陸より経済発展の早い香港や台湾とビジネスをするためには、旧字体を使えばよりスムーズに進展できると思うからだろうか、旧字体が高級感のあるものだと感じるからだろうか、商業から観光業に至り、さらに日常生活にも旧字体があらこちらで見かけられるようになった。それに対して言語学者は主に「書簡識繁」、つまり簡体字(新字体)を書くことをすすめており、余裕があれば繁体字(旧字体)を学んでもかまわない、という寛容な意見を持っている。

4. 情報社会での漢字

4.1 日本

19世紀後半から、文章を作成する機械であるタイプライターはすでに欧米諸国で普及し、学校などの機関はもちろん、一般のビジネス社会でも多用されていた。欧米のように簡単にアルファベットですむのに比べて、日本語は漢字とかなが混じり、千字以上の漢字は言うまでもなく、仮名だけを取り扱っても面倒なので、タイプライターの導入と普及が一時ネックになった。

日本語入力装置の開発がいち早く解決されるべき課題と認識され、1970年代末期によくワードプロセッサ(略称ワープロ)専用機が登場した。80年代の低価格かつ高機能のワープロ専用機の発売につれて、ワープロ専用機が一般家庭にとけこむようになった。こうして人々の文章を書く意欲も高まり、ワープロ専用機が漢字ブームを呼んだ。漢字の制限は、漢字を書くと感じる便利さと効率性を出発点としたが、ワープロの普及により、制限があまり大きな意味をもたなくなった。文章を書くときに表現が豊かになるために、常用漢字の増加は時代の流れに従っているとも言えよう。

2000年以降、一世を風靡したワープロ専用機はコンピュータに取って代わられた。現

⁵ 非識字者をなくす運動のこと。

在われわれがいうワープロとは一般的にコンピュータで文字を入力、編集するシステムのことを指している。ところで、コンピュータは初めから日本語を扱えるわけではなく、タイプライターからワープロ専用機への変化と同様に「ローカル化」をしてきた。その中の最大の問題点は文字コード⁶である。かつて文字コードの規格はコンピュータメーカーによって違い、異なるメーカーのコンピュータが情報を交換すると、受け手側が別の文字と認めて表示し、文字化けが起きる。その問題はインターネットの普及とともに深刻になり、それを解く鍵は統一する規格である。日本国内だけではなく、漢字圏でも順調に情報交換をするために、共通する文字コードが必要であり、それを推進することも情報処理における当面の重要な課題であった。

では、これらの情報機器は日常生活にどのような影響を与えているのだろうか。それを理解するために、全国範囲で権威ある調査の「国語に関する世論調査」の結果を見てみよう。「文章の中で漢字を多く使うようになった」、「文章が書きやすくなった」と多くの人が感じていることは予想通りである。「漢字の書き方を忘れることが多くなった」と答える割合が年々大きくなったことから、情報化がもたらした最も顕著な変化は漢字の書く力の低下、ということも分かった。情報機器の使用で、漢字を覚えておく必要がなくなったので、漢字能力低下になる原因も理解できる。それに対して、批判する人もいれば、漢字を書けなくても大丈夫だと思える人もたくさんいる。漢字を書くために工夫するより、文章作成、意見伝達などの能力の開発に時間を使うべきだと指摘される。

4.2 中国

パソコンでの漢字処理の難しさは前節ですでに述べたが、中国にとっては日本より状況がさらに難しかった。常用漢字およそ二千字がある日本語と比べて、中国語の常用漢字ははるかに多く、約七千字に達した。その膨大な文字数が原因で、中国では漢字情報処理技術が欧米から百年くらい遅れをとった。11世紀に発明された活版印刷は1970年代までそのまま用いられ、情報革命による出版物の激増に完全に適応できない状態に陥った。そこから1974年8月の「748プロジェクト」という国家プロジェクトが始まり、約十年かかったその研究成果が情報処理に大きく貢献した技術革新であり、中国の印刷業に新たな局面を切り開いた。かつて平均300日もかかる印刷物の出版は、新しい技術によって200日減らされ、印刷物のジャンルも明らかに増えた。

しかし、中国におけるワープロ普及は日本より依然として後れている。筆者の経験に限ると、高校までほぼすべての宿題を手で完成された。大学に入ると、資料の整理、レポートの作成などでワープロが以前より多く使われるが、それでも手書きのチャンスより少ないのが事実である。情報時代に生まれた若者でもその状況であるので、漢字入力に不慣れな前の世代はなおさらである。全般的に見れば、中国インターネット情報センター(CNNIC)の調査によると、2012年全国のインターネット普及率が四割しか達していない。インターネットユーザーとワープロユーザーが大幅に重なり合うゆえに、ワープロ普及率はその数値とそう変わらないであろう。

ところが、ワープロがまだ普及していない中国では、漢字の書き能力の低下がすでに問

⁶ 文字をあらわす番号を文字符号、符号位置、コードポイント等といい、文字と文字符号の関係を決めた対応表の符号化文字集合のことである（加藤（2002：14））。

題視されている。中国の12都市で行われた「中国人書道」調査が示したように、よく漢字の書き方を忘れると思う人が26.8%いる。⁷一つの理由は情報社会での平均読書量の減少である。人々は仕事の余暇に主にテレビやインターネットから情報を仕入れ、映像が文字より視線を引きつけやすいので漢字を読む時間がますます少なくなった。もう一つの理由は前文のとおり、ワープロ普及により書くチャンスが減ったことである。

情報処理技術が進歩するにつれて文字表記が極めて便利になった一方、問題も少なくなっている。漢字の簡略化とワープロとの目的は一致しているが、結果としては反対の方向に進んできた。漢字を書く時代から打つ時代へのいまの転換期には、そのバランスを求めなければならないと思われる。

5. おわりに

本稿を通じて、日本の漢字と中国の漢字はそれぞれに改革の道を進んで来て、まったく別の文字であると再認識できると考える。そして、改革ではどの方案でもすべての人に同意させることができず、いつでも反対意見があることが分かる。みんな喜んで引き受けるような、完璧な文字だけを一途に求めるのを出発点とすることは間違ったことであろう。あるいは、一つの時代においても、一つの言葉を書こうとしてもいくつかの選択肢がある、という表記上の揺れのある文字はまさにその言語の特色であろう。

時間がたつにつれて、かつて漢字が直面した問題は次々に解決された。書きにくい漢字が簡略化され、パソコンなどの情報機器もうまく漢字を扱えるようになった。これらの変革がおきるたびに、人々の個人的な生活に大きな変化をもたらすわけではないが、社会全般から見れば、変革への投資や変革の影響は極めて大きい。そのために、今後の漢字改革は重に行われ、漢字に関する問題は今後短時間で安定すると予測できる。一方、日進月歩の情報社会での漢字は、使われるうちに知らず知らず変貌を遂げた。意欲的な改革にせよ、無意識の変貌にせよ、最も大事なものは、変革している漢字の多種多様なありかたに寛容な心を持つことである。

参考文献

- 阿辻哲次 (2007) 『近くて遠い中国語—日本人のカンちがい』 中公新書
 阿辻哲次 (2010) 『戦後日本漢字史』 新潮選書
 加藤弘一 (2002) 『図解雑学 文字コード』 ナツメ社
 三枝令子 (2012) 「常用漢字表の改定がもつ意味」『言語文化』49、一橋大学語学研究室
 笹原宏之 (2006) 『日本の漢字』 岩波新書
 野村雅昭 (2008) 『漢字の未来』 三元社
 林四郎 松岡栄志 (1997) 『日本の漢字・中国の漢字』 三省堂
 陈章太 (1992) 「论汉字简化」『语言文字应用』

⁷ 网络时代遭遇写字尴尬 九成受访者曾提笔忘字
<http://www.zsnews.cn/zt/zsmedia/News/2013/05/28/2436325.shtml> (2013年6月8日)